A. 主な動き

1. 内政

各政党の動き

・8日、ギンプ自由党党首は、与党連合A EIのメンバーである同党は政権内における要職を求める方針である旨発言し、検事総長のポストの可能性につき言及。これに対し、ストリレツ自由民主党議会議会派代表は、特に異議はない旨、また、ディヤコフ民主党議会議会派代表は、本件はA EI評議会で協議される旨発言。

・11日、ルブ民主党党首は、同党は国家近代化のための改革には政治の発展・効率化及び近代化は不可避であるとして、6月の次期党大会の後に党の基本方針に変更を加える意向である旨発言。

その他

・10日、議会は、ティモフティ最高司法評議会議長の大統領就任に伴い、同議長の職からの解任を決定。

2. 経済

IMF

・8日、フィラト首相は、現在のIMFとの協力プログラムの実施の枠組みにおいて、現在訪問中のゲオルギエフIMF調査団長と会談を行い、IMFのモルドバへの支援について感謝するとともに、IMFとの合意と協力はモルドバにとって、大変重要だと考えており、他のパートナーとの協議において信頼性を高めることにも繋がる旨発言。

EUとの関係

・10日、EUは、モルドバにおける地域の発展のための能

力開発プロジェクトの実施のため、117万ユーロを供与するとともに、本プロジェクトは本日(10日)開始され、2012年5月から2014年1月にかけて、フランス、ラトビア、ルーマニアとのパートナーシップの下で実施される旨報告。

・10日、モルドバ経済省は、EUとの深化した包括的自由貿易協定(DCFTA)の第2回目の交渉が6月11～15日にブリュッセルで開催される旨報告。同省は3月末に行われた第1回目の交渉の後、第2回目の交渉は合意する中身について議論がなされる予定であり、今秋予定の第3回交渉において、商品やサービスに係る関税についての議論がなされる予定である旨報告。

3. 外政

フィラト首相のルーマニア訪問

・9日、フィラト首相は、ルーマニアを訪問し、ボンタ首相と会談。フィラト首相は、ボンタ首相就任に対し祝意を表明した上で、過去2年間にモルドバ・ルーマニア関係は飛躍的に発展した旨指摘。両首相は、両国関係の多角化及び深化につき意見交換し、モルドバの欧州統合路線における協力に関し協議。

4. 防衛

・9日、ティモフティ大統領は、キシナウで開催された戦勝記念日の式典に出席、退役軍人及び戦死者に敬意を表すとともに、モルドバ繁栄のための具体的かつ効率的な努力によって報いる旨発言。

本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。

(了)